

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

～産業界のニーズをとらえて～
産学連携型新科目「Wake up!プロジェクト」を開講
主体的な学びの姿勢を培うキャリア教育の実施

- 横浜国立大学では、産業界へのインタビュー調査（36名）により、「主体性」が社会人基礎力の原動力であり、主体性を発揮できないことが若手社員の課題であることを確認。
- その対応策の一つとして、キャリア教育に初年次教育の要素を加味した産学連携のプロジェクト型科目「Wake up! プロジェクト」を新規開講。
- 課外活動時間が多い科目にもかかわらず、定員 42 名に対して 132 名もの学生が受講を希望。
- 高校 4 年生状態から大学生に、学生の意識を覚醒させ、主体的な学びの姿勢を育むのが目的。正解のない課題に挑み、教えずがない授業で、失敗経験から自己発見的に学ぶ。

背景

課題解決力やコミュニケーション力など、職業に係らず汎用的に必要な社会人基礎力が新卒社員に欠けると言われて久しい。その実態把握のため、横浜国立大学では企業の人事育成担当者 14 名、および同大出身の 20 代社会人 22 名にインタビュー調査を実施。当事者意識をもって思考する「主体性」が個々の社会人基礎力の原動力であり、若手社員が職場で発揮すべき主体性を身に付けていないことが課題の本質であることを確認した。

概要

この結果を受けて、4 月より、企業が直面する現実課題に学生がチームで取り組む産学連携のプロジェクト型の新科目「Wake up! プロジェクト」が進行している。カリキュラムは一般社団法人 Future Skills Project 研究会（FSP 研究会）の講座を採用し、株式会社ベネッセコーポレーション、地元横浜のエバラ食品工業株式会社が企業課題を提供し授業に参加している。履修対象は全学部の 1 年生。本科目は週当たり 3～5 時間の課外活動が必要であり、学生にとって負担は大きくなるが、42 名の定員に対して 132 名が受講希望をした。その中から学生が提出した履修希望書から、意欲的な学生だけでなく、議論やグループ活動に苦手意識のある学生、自分を変えたいと訴える学生などを履修生に選抜しスタートした。前半を終えて、学生の出席率はほぼ 100%、週当たりの平均課外学修は 4 時間 20 分。企業課題に挑むという真剣勝負を通じて、大学受験という一人作業で培った能力を、組織集団の中でどう発揮すればよいかを失敗経験を通じて学んでいる。

★6 月を中心に企業からの講師を迎え、実践性を高めます。この機会に是非ともご取材等をお願い申し上げます。

（詳細は別添資料をご覧ください）

本件に関するお問い合わせ先
横浜国立大学 大学教育総合センター キャリア支援部 特任教員（講師）市村光之
TEL 045-339-3588 E-mail : ichimura@ynu.ac.jp

詳細

課題解決力やコミュニケーション力など、職業に係らず汎用的に必要な社会人基礎力が新卒社員に欠けると言われて久しい。その実態把握のため、横浜国立大学（大学教育総合センター キャリア支援部 市村光之特任講師）は企業の人事育成担当者 14 名、および同大出身の 20 代社会人 22 名にインタビュー調査を実施し、若手社員の課題仕事現場の実態を探った。当事者意識をもって思考する「主体性」が個々の社会人基礎力の原動力であり、若手社員が職場で発揮すべき主体性を身に付けていないことが課題の本質であることを確認した。

この結果を受けて、同大ではキャリア教育の見直しを進めている。4 月より、新科目「Wake up! プロジェクト」がスタート。企業が直面する現実課題に学生がチームで取り組む産学連携のプロジェクト型授業だ。カリキュラムは FSP 研究会の講座を採用した。履修対象は全学部 of 1 年生。この科目は「楽単」ではなく、週当たり 3 ～5 時間の課外活動が必要とくぎを刺したにもかかわらず、42 名の定員に 132 名（全学 1 年生は約 1600 名）が殺到した。主な希望動機は、「企業参加のプロジェクトに興味をもった」、「自分を試したい」、「社会人基礎力が身に付きそう」など。学生が提出した履修希望書から、チャレンジ精神旺盛な学生だけでなく、議論やグループ活動に苦手意識のある学生、自分を変えたいと訴える学生などを選んだ。前半を終えて、学生の出席率はほぼ 100%、週当たりの平均課外学修は 4 時間 20 分。

同科目では 2 つの企業課題に挑むが、課題解決の手法は教えない。1 社目は株式会社ベネッセコーポレーションのインドネシア進出プラン。「ネット以外で、どこから情報を集めればいいですか？」正解のある問題を解くことに慣れた学生たちは戸惑う。「現地調査に行くことはできないよね、では代案は？」と教員が問う。「インドネシア料理店に行ってみる」、「大使館はどうかな」。そんな声が飛び交う。企業へのプレゼンでは、「君は一体なにを解決したいの？」、「それはアイデア先行。ベネッセがやる必然性があるのか」と手厳しい指摘が企業担当者から浴びせられる。こうした真剣勝負を通じて、学生たちは主体的に考えて動く、を自己発見する。1 社目のプロジェクトを終えて、「初めは意見が言えなかったが段々言えるようになった」、「悔しい。この失敗は次に活かす」と学生は言う。大学受験という一人作業で培った能力を、組織集団の中でどう発揮すればよいかを失敗経験から学ぶ。

来週から、地元横浜のエバラ食品工業株式会社が 2 社目として登壇する。学生にとっては、前回の失敗から学びリベンジするプロジェクト。「小さな成功体験が自信につながる。自ら課題を見つける、情報を取りに行く、など大学で主体的な学びの姿勢を身に付けられれば、社会に出ても主体的に動けるはず。専門課程での学びを社会とどうつなげるか。この授業を通じて、高校 4 年生状態から大学生に、学生を覚醒させたい。キャリア教育というよりも初年次教育の位置づけ」（同大・市村特任講師）。

補足説明

FSP 研究会の講座

一般社団法人 Future Skills Project 研究会（座長・安西祐一郎）。

青山学院大、上智大、明治大、立教大、東京理科大の 5 大学と、アステラス製薬、サントリーホールディングス、資生堂、日本オラクル、野村證券、ベネッセコーポレーションの 6 企業により開発された FSP 実践講座を授業カリキュラムとして採用した。

■ Wake up! プロジェクトのシラバス(抜粋)

授業の目的

受験勉強と異なり、大学での学問に絶対の正解はありません。自ら課題を見つけ、探求し、自分が納得する答えを見つける場が大学です。そうした大学での学びのスタートに当たり、あなたを目覚めさせたい。大学生活を充実させるきっかけを提供したい。そんな思いから、この科目は立ち上がりました。

産業界の協力のもと、2つの企業の現実的なテーマに履修生がチームで取り組み、解決策や企画案を提案します。正解のない課題に挑み、チームで解を求める活動を通じて、大学で「主体的」に学ぶとはどのようなことか、を自己発見的に修得するのが目的です。この授業が終了するとき、これまでとは違うあなたに、きっと成長しているはずです。

履修対象は1年生で、特にこんな人にお勧めです：

- ・入学はしたけれど、何を目標に大学生活を送ればよいのだろうと悩む人
- ・自分が入る学部・専攻での学びを、将来にどう役立てればよいのだろうと悩む人
- ・高校までとは違う何か、真剣に取り組める何かにチャレンジしたい人

授業方法

授業は、協力企業2社から提示されるテーマに基づく提案プロジェクト活動（リサーチ、グループ討議、プレゼン）が中心です。履修生は6名前後のチームに分かれ提案内容を検討し、企業の担当者にプレゼンします。従って、プロジェクト活動への積極的な参加が求められます。チームで意見をまとめ、プレゼンの準備を進めるには、授業外の自主的学習時間（毎週3～5時間程度）も必要です。苦労は多いですが、その分、得られるものも大きいはずです。

授業予定

回	授業日	授業テーマ
1	4/9	Wake Up! プロジェクトの意義：「主体的」学びとは
2	4/16	明日のために 1:プロジェクトの進めかた
3	4/23	プロジェクト A 1: テーマの提示(株式会社ベネッセコーポレーション)
4	4/30	プロジェクト A 2: 作戦会議(グループ・ディスカッション)
5	5/7	プロジェクト A 3: 中間プレゼン(株式会社ベネッセコーポレーション)
6	5/14	プロジェクト A 4: 作戦会議(グループ・ディスカッション)
7	5/21	プロジェクト A 5: 最終プレゼンと講評(株式会社ベネッセコーポレーション)
8	5/28	明日のために 2: プロジェクト A の振り返り、中間レポート
9	6/4	明日のために 3: 自ら考えて動くこと
10	6/11	プロジェクト B 1: テーマの提示(エバラ食品工業株式会社)
11	6/18	プロジェクト B 2: 作戦会議(グループ・ディスカッション)
12	6/25	プロジェクト B 3: 中間プレゼン(エバラ食品工業株式会社)
13	7/2	プロジェクト B 4: 作戦会議(グループ・ディスカッション)
14	7/9	プロジェクト B 5: 最終プレゼンと講評(エバラ食品工業株式会社)
15	7/16	明日のために 4: 全体振り返り、大学での学び宣言、期末レポート

学生へのメッセージやその他の注意事項

企業の人が来るの？ 見知らぬ学生とチームを組んで話し合うの？ 授業外で勉強時間が必要なの！ そんなの面倒、と感じていませんか。確かに面倒で、tough な科目です。でも、だからこそ、得られるものが大きいのです。大学生活スタートの今だからこそチャレンジし、今後の学生生活を組み立てるベースにしていきたいと思います。

- ・初年次教育を意識したキャリア教育科目のため、履修生を1年生に限ります。
- ・プロジェクトベースの授業のため、受講定員 42 名を目安とし、希望者多数の場合は学部のバランスに配慮し抽選します。
- ・毎週 3～5 時間、自主的な授業外学修時間が必要です。その覚悟をもって履修してください。

備考

- 授業時間：2014 年度春学期 毎週水曜日 10:30～12:00
- 履修者：全学部対象、1 年生、42 名程度（7 グループ）
- 担当教員：市村光之

産業界ニーズ調査結果報告・サマリー

平成25年12月25日
大学教育総合センター キャリア支援部
特任教員(講師) 市村光之

— 本学キャリア教育の体系整備に向けて —

1. 調査の概要

目的

- ・ジェネリック・スキルの中身、課題の構造を把握
- ・本学キャリア教育の整備・改善

調査方法

- ・実施時期:2013年(H25) 8～9月
- ・調査方針:若手社員の課題に関して企業側(人事)/若手社員(卒業生)双方の言い分を比較検証しつつ、産業界ニーズを抽出する
- ・調査手法:
 - ・フォーカスグループインタビュー(日本能率協会総合研究所に委託)
 - ・個別インタビュー(本学担当が実施)

調査項目

- ① 入社1～2年目の新入社員の課題
- ② 入社5～6年目の中堅社員の課題
- ③ 大学教育に期待すること
- ④ 横浜国大のキャリア教育の改善点

調査対象

企業側	手法	人数
理系:	フォーカスG	4
人事・育成担当	個別	5
文系:	フォーカスG	3
人事・育成担当	個別	2
		14

(金融、食品、小売、製造(部品・機械)、製薬、IT、建設などの大企業)

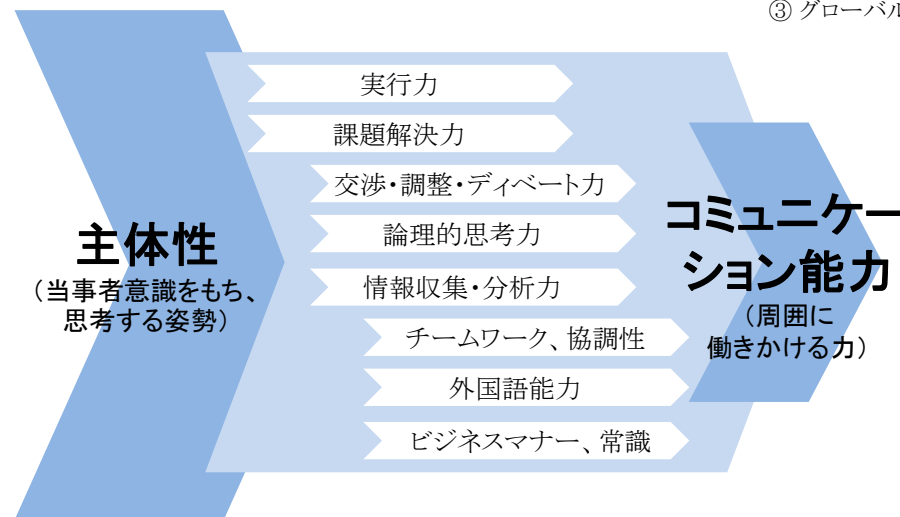
卒業生側	手法	人数
理系:入社2年目	フォーカスG	6
理系:入社6年目	フォーカスG	5
文系:入社2年目	フォーカスG	6
文系:入社6年目	フォーカスG	5
		22

(理系:院卒、文系:学部卒)

2. ジェネリック・スキル:主体性が原動力

- ① 「主体性」がジェネリック・スキルの原動力になっている
- ② 主体性に基づき、個々のジェネリック・スキルが発動する
- ③ それらは「コミュニケーション能力」により、外部に表出する

EX: 課題解決力: 課題解決の手法やフレームワークを学んでも、当事者意識を持って(主体性)課題を見つけ、解決のために周囲と協働(コミュニケーション力)しなければ解決はできない



3. 新入社員:「主体性」を理解していない

どんな場所でも適応する柔軟性や忍耐力を備え、
自ら考えて主体的に動くことができる人を求めている

- ① 仕事をやり遂げる責任感
- ② 自ら課題や改善点を探し、よりよいものを生み出す課題解決力
- ③ 仕事の本質を理解しようとする問題発見・情報収集力
- ④ よい意味での競争意識
- ⑤ 異質なものを受け入れ広い人間関係を築くコミュニケーション力
- ⑥ 理想と現実とのギャップを乗り越える忍耐力・適応力

卒業生の発言と比較すると:

論理的思考力、課題解決力など個別課題に眼がいきがち。本質は、組織の中で主体的に動く姿勢の欠如にあることを理解していない

5. 産業界:主体性を養うキャリア教育を期待

- ① 理想と現実を埋めるリアリティあるキャリア教育を
- ② 職業観(働く意味、学問との係わり)を醸成する教育を
- ③ アクティブ・ラーニング(プロジェクト型、双方向授業)で主体性を
- ④ インターンシップ:長期を望む意見と、限界を感じる意見あり

大学教育全般への期待

- ① 論理的思考力を養う教育を
- ② 主体性、コミュニケーション力を養う教育を、理系は基礎力を
- ③ グローバル対応:国内で通用する実務能力と異文化を受け入れる姿勢

本学を目指すキャリア教育:

生真面目で大人しい優等生、
国大生のやる気を引き出し
自ら考え行動できる人材の
育成を目指す

- ・学業の目的を発見させ自律的学修へ
- ・就職のためでなく、ライフ・キャリアの視点で
- ・自ら考え行動する、を体感させるカリキュラムを

4. 中堅社員:キャリアの方向性で悩む

組織のリーダーになる意識と、より高度な業務遂行能力を求めている

- ① 今までより広い視野を持ち、業務のレベルを上げる
- ② 組織の中での役割を管理職目線で積極的に果たしてほしい
- ③ 私生活と組織内の期待役割との調和を図ること
- ④ 女性総合職では、男性と同じ条件下で活躍を期待する

卒業生の発言と比較すると:

企業側が求めることと、卒業生が理解する課題とはほぼ一致
分かってはいるが期待に応えきれない面、私生活との調和に悩みあり

卒業生のホンネ:

- ・出世欲は多少あるも管理職は大変、ガツガツ出世は望まない
- ・キャリア形成上自分にも、会社にも、将来への漠とした不安あり